

40周年記念事業として：静岡県のGEO DATAをつくろう

著者	久保田 実
雑誌名	静岡地学
巻	90
ページ	59-62
発行年	2004-11-20
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00025007

40周年記念事業として 静岡県の GEO DATA をつくろう

久保田 実

静岡雙葉高等学校

静岡県地学会は今年で創立40周年を迎えました。20周年には「遠足の地学」を、また30周年には「駿遠豆大地見てあるき (続遠足の地学)」を記念事業として出版いたしました。今回の40周年記念事業については、行事委員を中心に種々計画され、運営委員会においても検討された結果、静岡県内の地学的事象を項目別にリストアップして、それらのデータを統一的基準でまとめた GEO DATA BASE を作成することにいたしました。この事業は、県地学会会員の総力をあげて取り組んでも数年の歳月を要するものと思われまふ。従って、今年40周年を記念して、県地学会がこの大事業に取り組む元年としたいと考えております。

具体的には、静岡県内に存在する、知っておきたい地学的現象やすでに失われつつある地学的事象を取り上げ、それらの現象や事象に関して県地学会の会員が全県的に調査研究し、それらの結果を DATA BASE として保存し、最終的には「静岡 GEO DATA BOOK (仮称)」としてまとめたいと考えております。

1. 静岡県の「GEO DATA BASE」について

近年、人間活動に伴う環境破壊によって動植物の絶滅が危惧されている。このような状況を調査して RED DATA LIST を作成し、その現実を多くの人に知ってもらおうという生物種の保全・保護を促す試みがある。これらの調査結果は、この春、「まもりたい静岡県の野生生物—県版レッドデータブック」として出版された。私達は、この運動と連動した地学現象を「GEO DATA LIST」と呼ぶことにし、静岡県内の各種地学現象について、私達はそれらの所在を1/25,000地形図にプロットし、そのデータを「GEO DATA BASE」として、長く保存しようというものである。この事業によって得られた記録 (GEO DATA) は最も信頼できる資料として広く一般的に活用してもらえよう、また専門家も参照したくなるような最新の情報をもった高度なレベルの内容にしたいと考えている。

2. GEO DATA BASE の作成手順

「GEO DATA BASE」は以下のような手順で県地学会に集約する。

(1) 調査項目の決定：静岡県の東・中・西部ごとに、各支部で特徴的な地学現象を取り上げ、それらを項目 (一項目一件の場合と一項目多件の場合がある) ごとに「調査研究項目票」(図1) に記入する。これらの調査項目にはコード番号 (GEO DATA CODE 一覧参照) を付し、調査項目として設定する。

(2) 調査・研究：上記の設定された項目に対して、個人または数人のグループによって全県的な調査を行う。例えば、

①「金鉱床」（東部提案項目）の場合：まず、伊豆半島に存在するまたは存在した金山等をくまなくリストアップし、それらの歴史を含めた個々の鉱山について詳しく調査する。続いて、順次、中部、西部に同項目の調査を拡張していく。

②「枕状溶岩」（中部提案項目）の場合：まず、県内に存在する全ての枕状溶岩の分布を調べ上げ、それらの規模や露出の状況、地質時代など地質学的調査を行い、それらの結果を記録保存する。

③「ナウマン象」（西部提案項目）の場合：これまでに県内で産出したナウマン象化石の部位、産出地点、産状、産出年代などを文献だけでなく現地調査によって詳しく調べ、信頼性の高いデータベースを構築する。

以上のように、地学会会員による独自の調査研究により、これまでに知られていなかった新事実が判明するとともに、県内における同項目についての重要性が再認識されることになる。これらのオリジナルデータは県の貴重な財産となります。各項目の所在地（位置）を1/25,000地形図に記入し、それらの記載をするとともに項目によってはサンプルを採集し、状況写真を保存する必要がある。

(3) 調査結果：各項目の調査結果は、「GEO DATA 調査票」（図2）にデータを記入するとともに、所定の形式（A4用紙（横）に写真、地形図、説明文をつける）に従って「報告書」（図3）にしてまとめる。この際、より詳しいオリジナルデータは調査者が各自保管するものとする。

(4) データの管理：個人やグループによって調査された項目は、各支部に集約され、本部でまとめられるが、調査結果の著作権については、基本的には個々の調査者にあるものとする。

提出されたデータ（図1～3の票）の著作権は、県地学会が所有するものとする（ただし、誰によって調査されたものか調査研究者の氏名は明記される）。

（注意）調査研究によって得られたオリジナルデータは、基本的には調査者によって保存されるが、採集標本などは県地学会に寄付され、県の標本保存事業（将来の県自然史博物館）の収蔵庫に移し保管されることが望ましい。

3. GEO DATA CODE 一覧

各調査項目は、以下の分類に従ってコード番号（6桁）が与えられる。最初の2桁を大分類とし、次の2桁を中分類、最後の2桁を小分類として整理する。

大分類は、天文00、地震10、気象・海洋20、地質30、地形40、化石50、鉱物・鉱床60、岩石70、火山80、その他の地学90と区分し、大分類の中を、2桁目を使って更に区分できるようにした。

中分類は、例えば地質30中の地層には01、地質構造02、フォッサマグナ03、中央構造線04、糸魚川―静岡構造線05のように2桁のナンバーが順次与えられる。

小分類は、地質30、地層01の中の石炭系には01、二畳系02、三畳系03、ジュラ系04、白亜系05、古第三系06、新第三系07、第四系08、四万十層09のようなナンバーを与える。このようにして与えられたコード番号は、具体的な各項目としては次のような6桁の番号がつくことになる。例えば、四万十層は300109となる。

それぞれの項目は以下のようなコード番号で整理される。

地形40 侵食地形01 洞穴01 (400101), 化石50 脊椎動物01 ナウマン象01 (500101), 鉱物・鉱床60 鉱山01 金01 (600101), 火山80 溶岩01 溶岩樹型01 (800101), その他の地学90 植物01 ヨコグラの木01 (900101)。

これまでに提案されたコードは以下の通り。

白亜系300105, 古第三系300106, 第三系300107, 第四系300108, 四万十層300109, 断層300201, 段丘300202, ケルンバット300203, 鍾乳洞400102, 砂丘400201, 海食台400202, 海岸の砂400203, 海岸線400404, 浜名湖400301, ポットホール400401, 蛇行400402, 滝400403, 河川礫400404, 段丘400405, 砂丘400406, 牧の原400601, ナウマン象500101, 鹿500102, アンモナイト50201, 炭化木500301, 珪化木500302, 砂金500102, 旧鉱山600103, 石灰岩700101, オニオンストラクチャー700102, ノジュール700103, 溶岩洞穴800102, 枕状溶岩800103, 柱状節理800201。

4. 研究項目の一部 (各項目により小項目あり)

日本平, 大谷崩れ, 相良油田, 古谷層, 静岡層群, 根堅遺跡, 小笠山, MTLの露頭と地形。

図1. 調査研究項目票。

調査研究項目票 ()

東・中・西 支部	提出日 年 月 日
調査責任者 氏名	
調査者氏名	
大 分 類	
中 分 類	
小 分 類	
コード番号 (記入しない)	

調査研究項目票 ()

東・中・西 支部	提出日 年 月 日
調査責任者 氏名	
調査者氏名	
大 分 類	
中 分 類	
小 分 類	
コード番号 (記入しない)	

図2. GEO DATA 調査票.

GEO DATA 調査票 ()			調査者
テーマ 東 中 西			
整理番号	存在・消滅 確認 年 月 日	確認物: 1. 写真 2. 標本(大きさ) 3. 4.	
メッシュ番号			
確認地	静岡県 市郡 町	その他: 1. Map:1/() 2. ルートマップ(有・無)	
	緯度:		
	経度:		
具体的な位置、補足事項(持ち主など)			
コード	地 学 的 要 素 (調 査 項 目)	確認有無	Sample の 様 子 (例:露頭あり・礫大・礫小・良・壞)

図3. 報告書.

報 告 書

書 式 : ① A4横の用紙を用いる。 ② 写真貼付 ③ 1 / 25,000地形図

写真貼付	1/25,000 地形図
解 説 文(文字の大きさは自由)	

A4サイズ内に、上記のように配置し、写真、地形図、説明文は適宜とする。